

# 地域の宝物、小針浜海岸を地域で守る

新潟県新潟市 真砂小学校コミュニティ協議会生活環境部会長 根本 修一

## 1. はじめに

新潟市の西部に位置する小針浜海岸は、国道402号沿線の、上新栄町地内の海岸です。

豊かな景観や水辺環境を活かし、人が憩い楽しみながら自然環境と触れ合う場所を創出することを目的として海浜緑地が整備されており、その拠点施設であるなぎさのふれあいセンター「ゆうやけこぼり」が新潟市により平成13年に設置されました。

夕日は佐渡ヶ島を浮きぼりにし、人の心をなごませ、明日への希望を与えてくれる絶景です。特に夏は海水浴に多くの人々が訪れ賑わいます。



ゆうやけこぼり全景（平成30年7月）

## 2. 地域の宝物、小針浜海岸

住民へのアンケート調査を行うと「この地の良いところはなんですか」の問いに対し、大多数が「浜辺と夕日」との回答であり、小針浜海岸は地域の「宝物」となっています。

新潟市の海辺の最大のイベントは、8月に行われる、ミュージシャンを招いての「日本海夕日コンサート」です。

昭和61年（1986年）にスタートしましたが、平成元年（1989年）から当地小針浜海岸に会場を移し、今年で34回目になります。

平成6年（1994年）には7万2千人もの観衆で大規模なイベントになりました。

これは、ふるさと「新潟市」の街の魅力を創造し、街を元気にし、市民の手による「まちづくり」キャンペーンでもあります。原風景である海辺の空間と沈む夕日。「日本海と夕日」をキーワードにした新潟市の魅力づくりでもあります。

この海辺を昭和56年（1981年）から清掃活動をしており、近年は「海の日」の早朝に小中学校



日本海夕日コンサート（平成30年8月5日）

の児童・生徒、住民と新潟市西区役所（以下、西区）、国土交通省（以下、国交省）等の千人規模で清掃し「宝物」を大切にしています。



海岸清掃（平成30年7月15日）

### 3-1. 飛砂との闘い

「海は荒海向こうは佐渡よ」は北原白秋の詩の『砂山』であるが、秋から春にかけ、日本海特有の北西の飛砂を伴う季節風は人を寄せつけない程の荒涼たる所でもあります。

この地、真砂小学校区は戦後満州開拓から引き揚げてきた方々の昭和24年の入植からスタートしました。「真砂砂漠」とも呼ばれたこの地での農業は筆舌に表し難い苦勞、とりわけ「飛砂」との闘いがありました。入植された方々が農業として生計を維持できるようになるのに10年掛かったと言っています。

昭和39年6月に新潟地震があり、全市的に大きなダメージを受けましたが、当地は比較的地盤が

安定していて、高度成長の波にも乗って振興住宅地として急速な発展をとげました。文教科制や交通網も整備されましたが飛砂は容赦なく道路や住宅地に襲いかかりました。

季節風の時期は言うに及ばず、一年中家の中が砂っばい状況です。

海岸沿いの国道402号線は秋から春に掛けて飛砂はひどく除雪ならぬ「除砂」で毎年40回もグレーダーが出動する程で、時に通行止めになることもありました。

### 3-2. 飛砂対策は地域の重要課題に

当海岸は昭和に入って大幅に侵食され、これに対して国交省信濃川下流河川事務所は昭和52年より直轄事業として人工リーフ2基(450m)、離岸堤15基(2,350km)、緩傾斜護岸(615m)、砂浜安定工(4ha)等を平成25年までに完了させました。これで砂浜が大きく回復しました。

しかし、これによりこれまで以上に飛砂が大きな問題となりました。国交省が「砂浜安定工」として実施した堆砂垣、浜にんにく、アキグミの植栽、しき藁等の効果により、国道402号への飛砂は4割低減しましたが、交通障害、住宅地への被害は止まりませんでした。

新潟市が平成19年4月に政令都市となり、住民自治を基本とした区政をしきました。同時に小学校区単位のコミ協が全市に組織されました。

真砂コミ協は真砂小学校区を範囲(約4千世帯)として平成18年7月に結成され「地域のことは地区で解決を」と飛砂対策を住民要求の解決に取り組み始めました。新潟市西区も重要課題として飛砂対策に力を入れ始めました。又、国交省信濃川下流河川事務所と県に飛砂被害の実態を訴えて協働を要請しました。

### 4. 継続的な対策をスタートさせる

自然相手の活動では、住民と行政、学者、事業者等でも協働が必要でした。平成22年3月、新潟市に対する飛砂の抜本的対策を求める要望書の提出を皮切りに7月22日には飛砂状況視察会、平成22年10月16日には「にいがたなぎさの植物育て隊」を実施しました。

これは国交省信濃川下流河川事務所の援助を受けながら、区、コミ協との共催で、子供達と一緒に海岸植物の勉強、野草の種集め、種蒔き、子供達の砂絵づくり、貝殻標本づくりを行い、豚汁も用意して親子で楽しめるものでした。

また、平成23年9月に実施した「飛砂を考え

る」シンポジウムでは、飛砂のメカニズム、国、県、市のこれまでの取り組み、地元住民の飛砂による被害の実態等が縦横に語られました。これが全体で協働を強めるきっかけとなりました。



にいがたなぎさの植物育て隊活動状況  
(平成22年10月16日)

以下は活動の内容です。

#### ○勉強会12回

勉強会はコミ協が主催団体となり区、県、国交省の行政機関と地元住民、関係企業、大学教授等で、その都度の課題や対策等について検討しています。

#### ○市内各所の視察会3回

60kmの海岸線を持つ新潟市は、飛砂問題を抱える所が小針浜海岸以外に幾つかあり、それぞれ対策・活動を視察し、対策や活動の説明と交流をしました。

#### ○海岸植物の植栽

浜にんにく等の植栽は平成22年～31年にかけて11回行いました。前記「にいがたなぎさの植物育て隊」ではハマヒルガオやハマボウフウ等を蒔きましたが、一冬の飛砂の堆積に埋もれ地表に顔を出すことはありませんでした。



にいがたなぎさの植物育て隊活動状況  
(平成26年3月28日)

そこで飛砂に負けないものとして「浜にんにく」の植栽を平成 24 年から始めました。

この活動には、コミ協加盟 19 自治会の役員や自治会員、西区と国交省信濃川下流河川事務所の方々等、50 名程度が参加しての作業です。「浜にんにく」はどうか息づきましたが、やはり植生した部分の緑化は斑状況で砂丘を覆う状況には至りませんでした。

### 5. 人工砂丘の建設で被害は大幅に減少

部分的な浜にんにくの植栽では飛砂の災害を大幅に減らすことには限界があり、より効果的な対策が必要とされました。

そこで私達の要望もあり区では国道 402 号線に沿って人工砂丘（高さ 8m）の建設に取り組みました。

平成 27 年から 30 年にかけて全長 608m の人工砂丘が完成しました。併せて既存の飛砂防止柵の修理、新設と人工砂丘法面にコミ協と共に浜にんにくの植栽を進めました。これにより海岸に最も近い松海が丘 4 丁目（約 80 戸）の方々は、飛砂が従前の 3 分の 1 に減った、と改善を喜びました。除砂の出動回数も半分以下となり、道路の除砂費用も大きく減りました。また西区は、浜辺を楽し

む人々の利便性の確保と人工砂丘の保全のため海浜へ抜けるトンネルも造りました。自然の景観という地域の宝物を守り、住環境を改善する為の初期の目標は少しずつ達せられつつあります。



国道 402 号沿いの人工砂丘（平成 28 年 6 月 5 日）

### 6. おわりに

コミ協として、この課題に取り組み 10 年が経過しました。

自然相手となる飛砂対策に取り組むことが、いかに難しいかを実感させられた 10 年でした。しかし関係者の協働、中でも地域住民が自分達のこととして活動に参加されたことが大きな教訓です。今後も人工砂丘の保全と小針海岸全体の緑化推進や活動範囲の拡大などを行うとともに、新たに見えてきた課題にも取り組みたいと思います。